NPO 法人　京都観光文化を考える会
# 都草だより
第96号
発行人：小松香織
編集人：相場まり子
発行所：京都市上京区
下立売通新町西入
京都府庁旧本館2階
電　話：075-451-8146

**《新入会員紹介》**

## ■ 京都と品川をつなぐご縁



このたび、ご縁をいただき、都草に入会させていただきました、佐藤映仁（あきひと）と申します。福島県出身で、現在は東京都品川区在住です。家族は妻と娘二人で、長女は京都、妻と次女は私と東京で暮らしています。6 年前、50 歳を機に広告代理店を早期退職し、現在はフリーランスとして企業、地域、アーティスト等の情報発信に携わっています。

都草を知ったきっかけは、祇園祭のお手伝いの募集でした。「観光するだけでなく、京都の文化を支える側として関わりたい」と思い参加しました。今年は都草のボランティアとして大船鉾のお手伝いをするほか、宮本組の仕丁組としても祇園祭に参加しました。

京都へは年に何度も足を運び、「都をどり」「鴨川をどり」「水明会」、先斗町や上七軒のビアホールなどを楽しみ、花街文化に親しんでいます。また、毎年何十人もの友人を京都へ案内し、その魅力を伝えることも楽しみの一つです。菩提寺の本山は七条の智積院で、毎年ご先祖の回向をお願いしています。福島県出身ということもあり、京都守護職を務めた会津藩にも勝手ながらご縁を感じています。

7 月 2 日と 10 日には、娘二人の母校・品川学園で都草のスタッフとして修学旅行事前学習のお手伝いをしました。品川は日本橋から東海道最初の宿場町、京都はその旅の目的地でもあります。東海道で結ばれた二つのまちの魅力を、子どもたちにも伝えていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

（会員　佐藤 映仁）

## ■　学ぶ喜び京都再発見



今春 41 年間の教員生活を卒業。セカンドライフは何をしようか？

一足先に退職し訪日観光客のシニアボランティアガイドを始めた夫に刺激を受け、京都ウェルカムサポーター会の活動に参加。その中で都草の活動を紹介していただき５月末に入会しました。

京都人として京都の魅力を伝え、京都らしさを残す活動に携わりたい。その第一歩は自分が学ぶこと。入会後すぐに聖護院門跡での美化活動に参加させていただきました。庭の草抜きの活動後、草分執事長より歴史や建物、各部屋の襖絵などの文化財についてお話をうかがうことができました。

また、「寛永行幸四百年祭」との連携で秋に特別公開予定の宸殿や御水尾帝女院御殿の書院も一足先に拝観することができ貴重な体験でした。文化財を見せていただくと同時に、維持や保存がいかに繊細かつ重要であるかということを改めて感じました。

その日帰宅してお聞きした内容をすぐさま整理しました。知る、学ぶことのワクワクさに火がつき、私の知らない京都発見が始まりました。次の毘沙門堂の美化活動にも参加。前日の雨で水分を含んだ落ち葉の除去が大変でしたが、活動後のお話が楽しみで作業がはかどりました。秋の美化活動も楽しみです。

現在は「寛永行幸」関連の寺院や展覧会にも足を運んでいます。都草の様々な活動を通して京都再発見を続けていきたいと思います。

夢はいつの日か京都検定１級に合格することです。どうぞよろしくお願いします。（会員　宮本 裕美）

## ■ 38.8℃ 大船鉾巡行曳き手として参加



夜の祭りに出没すると噂されていた高橋夫婦の片割れです。もう出没しませんが、巡行復活以来、大船鉾ボランティアとして参加してきました。近年は体力の衰えを感じ、気候変動も考慮すると曳き手として携われる機会が限られると思い、今回参加を決めました。

6 月 27 日、八坂神社本殿で保存会木村理事長らとともに曳き手のお祓いを受けました。神事後、舞殿では囃子方による奉納が始まり、いよいよ本番への気持ちが高まりました。巡行当日は 7 時半に町会所へ集合し、半纏やワラジなど貸与品で身支度。曳き手は約 60 名で、半数は京都青年会議所（JC）の方々。初参加の JC 会員は荷車係となり、他の曳き手は身長順に並び配置されました。出発後は順調でしたが、錦付近で右足のワラジが千切れ、蛸薬師付近では左も破損。保存会の方に助けられつつ綱に追いつきました。新町御池での初めての辻回しは、皆で力を合わせると意外なほど滑らかに回りました。



熱中症対策の水分補給は十分でしたが、アスファルトの熱さが辛く、辻回し地点の水溜まりは熱水となっていて足裏に焼けるような痛みが走りました。曳き出しや辻回し成功時の観衆の拍手は励みになり、デパート入口からの冷風には皆で「高島屋ありがとう」「大丸ありがとう」と声を上げました。

綱の位置による負担の差は大きく、先頭はほとんど力を入れていない様子で驚きました。終盤、鷹山の曲がりで 10 分以上停滞がありましたが、1 時過ぎに無事帰還。御礼品は手拭い、粽、赤飯でした。

（会員　高橋 浩次）

## ■ 2026 年度子ども文化教室「聞香」





都草が「明日の京都文化遺産プラットフォーム」と主催している子供文化教室で、老舗・山田松香木店（創業 1772 年）にて「聞香」体験を行い、17 名が参加しました。同店はもとは薬用の香木を扱い、のちに香りの香木も商うようになった歴史ある店で、絶滅種の香木も所蔵しており、貴重な香木を拝見できます。現在、日本では香木はほとんど採れず、多くはインドネシアなどで採取されています。

香道は室町時代に始まり、複数の香木を組み合わせた香りを和歌や古典文学、故事来歴などで表現し、その違いを当てる遊びとして公家社会で親しまれてきました。香りを「嗅ぐ」ではなく「聞く」と表現する点が特徴です。子どもたちに聞香の経験を尋ねると、3 名が知っており、さすが京都だと感じました。

当日は山田松香木店の三浦範子先生指導のもと、作法に沿って「三種香」を体験しました。三種香は 3 種類の香木を 3 回聞き、その組み合わせを当てるものです。組み合わせは「尾花の露（3 回同じ）」「琴の音（初めの 2 回同じ）」「孤峰の雪（1 回目と 3 回目同じ）」「隣家の梅（後の 2 回同じ）」「緑樹の林（すべて異なる）」の 5 通り。香りを心で聞くという難しい体験でしたが、2 名の子どもが正解し、純粋さゆえかと感心しました。参加者は皆「難しかったけれど楽しかった」と喜んでいました。

体験中、保護者の皆様には近くの京都府庁旧本館を坂本孝志特別顧問が案内し、こちらも好評でした。山田松香木店の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。（会員　藤井 久美子）